

西俊輔の「毎日楽しく」

Vo1.89 2013年1月号

生きてると、苦しい場面やつらい場面に遭遇することはよくあることです。それは家族など身近な人が病気になったり亡くなってしまったりすることもあれば、自分自身がそういう状況におかれることもあります。また、人間関係でのトラブルや仕事の上で苦しい立場に立たされるなど、身体的な苦痛以外の精神的な苦痛もあります。そうした苦痛が起きる原因がすべて自分にあるのであれば、自分の生き方や心の持ち方を変えることでそうした苦痛が起こらないようにすることも可能かもしれませんが、たとえそうした生き方が可能であったとしても、それでも身の回りで起きることのすべてをコントロールすることは難しいでしょう。先日起こった、山梨での高速道路のトンネル崩落事故などは自分でコントロールできない不幸な出来事の最たるものでした。もちろん、トンネルの維持管理などについての管理会社の責任は厳しく問われるべきなのですが、そのことと、今回犠牲になった方々との因果関係はまったくないはずで、言い方を変えると、犠牲になったのが、なぜ、他の人ではなくあの方々になければならなかったのか、ということです。犠牲になった方々のこれまでの生き方に今回の事故との因果関係があったなどとはとても考えられないからです。

人生にはこのような、偶然としか言いようのない、どうしようもなく起こってしまうことは厳然としてあります。それに対応するためには、アップルの創業者スティーブ・ジョブズさんが毎朝、「今日が人生最後の日だとしたら何をするか」と自分に問いかけていたという例にもあるように、日々悔いのないよう、毎日を一生懸命に生きるしかありません。その一方で、ある程度は自分の力でコントロール可能なことが多く存在することもまた事実です。そしてこのような自分の力でコントロール可能なことは、心の持ち方をより良くすることで好転することが多いようです。先月も引用した京セラ名誉会長の稲森和夫さんは次のようなことを言っています。「自分が置かれた厳しい環境をネガティブにとらえて卑屈になり、恨みつらみを募らせていくのか、それとも、厳しい環境を自分を伸ばしてくれる機会としてポジティブに受け取るのか、いずれの道を取るのかによって、行き着くところが大きく異なってしまうのは、仕事も人生も同じことだ。」

何が起きても悔いのないよう毎日を一生懸命生きる一方、より良い心の持ち方で人生そのものを好転させていくことができれば理想的ですね。

